

基礎調査の概要

資料4

1. 調査の概要

母子健康手帳は、妊産婦・乳幼児の健康に関する情報を様々な機関が共有するツールとして活用されており、子供手帳モデルに関する検討を行うに当たり、その参考となる資料を得ることを目的とし、文献調査及びヒアリング調査を実施した。

(1) 文献調査

目的: 母子健康手帳に関する以下の点について、公表資料をもとに情報の収集・整理を行った。

内容: 国の制度や内容の変遷
これまでの検討や研究の成果
国内で使用されている主な手帳類
外国(国及び都市)での普及事例

(2) ヒアリング調査

目的: 先進的な母子健康手帳について、手帳作成の経緯や検討方法、手帳の活用状況、今後の展望について具体的に把握することを目的としてヒアリング調査を行った。

対象: 公益社団法人沖縄県小児保健協会、茨城県常陸大宮市健康推進課、一般社団法人親子健康手帳普及協会
実施時期: 平成29年6月

2. 主な調査結果

(1) 母子健康手帳に関する基本的事項

文献調査

	概要
記載対象年齢	○原則、小学校就学前の子供が対象。ただし、「妊婦・新生児・乳幼児・学童期にいたる継続性」にも配慮し、適切な情報提供を行うことが望ましい。 ※母子健康手帳の交付・活用の手引き(平成23年厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業))
意義・使用方法	1. 妊娠から乳幼児期までの健康に関する重要な情報が一つの手帳で管理される 2. 各種の健康診査や母子保健サービスを受けた際の記録、予防接種の接種状況の記録がなされることで、継続性・一貫性のあるケアを提供できる 3. 妊娠や出産、子育てについて信頼のできる情報を提供する媒体として有用 4. 妊婦や保護者がその時々のお気持ちを記録することができ、家族の子育ての記録、子育て支援ツールとして活用可 ※母子健康手帳の交付・活用の手引き(平成23年厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業))

(2) 母子健康手帳の先行的な取組事例

文献調査・ヒアリング調査

先行事例における母子健康手帳

	特徴・対応状況					
	①低出生体重児等	②学齢期	③不安の解消	④父親の育児参画	⑤補完するツール	⑥その他
事例1	-	○成人まで健診等記録できるよう、記録欄を拡充 ○小学校での振り返りの授業や性教育でも活用可能	○妊娠経過等はイラストで図解 ○禁煙・歯の健康・母乳育児・食事・テレビ等との付き合い方についての内容を充実 ○各月齢や年齢の記録欄に健診や予防接種についての注意喚起メッセージを挿入	○父親も活用できるような名称を「親子健康手帳」に ○両親からのメッセージを記入する欄	○QRコードを入れて最新の情報がえらえるように工夫 ○発行番号を手帳に記載し、電子化することで、乳幼児健診や妊婦健診の結果と紐づけ可能	○妊娠から出産、子供の成長に沿って省令様式・任意様式を並び替え ○各種検査結果やエコーの写真も一緒に保存できるスペースを設けた
事例2	○低出生体重児が多かったため、食事のページを充実させ、手帳交付時には栄養士も同席、助言	○子供が成人したときに手帳を渡せるよう、20歳まで記録可能	○妊娠経過等はイラストで図解 ○禁煙・歯の健康・母乳育児・食事・テレビ等との付き合い方についての内容を充実 ○各月齢や年齢の記録欄に健診や予防接種についての注意喚起メッセージを挿入 ○子育て相談についての記録欄	○父親も活用できるような名称を「親子健康手帳」に ○父親によるサポートに関する記載を盛り込んだ ○両親からのメッセージを記入する欄	-	○妊娠から出産、子供の成長に沿って省令様式・任意様式を並び替え
事例3	○子供の体調の変化、病気やアレルギー、通院や投薬など、健康全般の記録を書き留めるページ	○18歳までの記録欄	○各ページの下部に「育児の名言」を挿入(母親の先輩、産婦人科医、助産師、小説の言葉など母親がほっとしてくれそうな言葉)	○父親の心構えを伝える父親のためのページ ○名称を「親子健康手帳」にしてみんなで使うものへ	○予防接種に関する詳細情報を別冊で提供 ○ホームページで使い方などを紹介	○持ち運びしやすいようにサイズをコンパクトにし、デザインを重視 ○省令様式の順番は極力かえず、任意様式の部分を妊娠・出産から子供の成長に沿って並び替え ○表紙裏にかけつけ医などの連絡先を記入する欄
事例4	○子供虐待の防止や発達障害の早期発見に関する情報	○20歳までの記録欄	○旅行や長距離移動の際の留意点に関する情報 ○予防接種に関する詳細情報 ○「つづる」ことで心を落ち着かせるための欄	-	-	○省令様式の順番は極力かえず、任意様式の部分を妊娠・出産から子供の成長に沿って並び替え ○表紙裏にかけつけ医などの連絡先を記入する欄
事例5	-	○中学生までの記録欄	○各年齢のページに育児アドバイス掲載	○両親から子供へのメッセージ記入欄	-	-

電子版母子健康手帳の導入例

■一部の自治体においては、母子健康手帳と併用する形で、民間企業等が開発・運営する電子版の母子健康手帳のサービスを住民向けに提供している例があった。

○主な機能

機能	内容
妊娠経過の確認	○出産予定日を登録することで妊娠経過を表示したり、週数に応じたアドバイスを配信。エコー画像や写真の登録も可能。
両親学級の情報提供	○参加できなかった方向けに動画で講習内容を提供。(参加した方の復習にも活用)
予防接種の管理	○誕生日等を登録することで、接種の目安日を表示。
成長の記録	○健診結果を登録することで自動でグラフ作成。成長の記録(○ができた日付を記録等)のほか、写真を登録することも可能。
育児に役立つ情報提供	○読み物や動画による離乳食の作り方等の役立つコンテンツ、医療機関の検索機能等を提供。
自治体からのお知らせ	○子育て関係の情報等を配信。
外国語対応	○多言語による配信も可能。

※提供するコンテンツや情報配信等の内容は自治体により適宜アレンジされ提供されている。

○自治体の独自機能等

神奈川県では、電子母子手帳に記録した内容を健康データを一括管理するアプリ(「マイME-BYO(みびょう)カルテ」と連携させる機能を付加している。

(3) 国内で主に使用されている母子健康手帳以外の手帳類

文献調査

■大きく「支援受給に関する手帳」(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)のほか、「子供全般に関する手帳」「子供の特性に関する手帳」に類型化された。

類型	手帳類(作成者)	概要
子供全般に関する手帳	父親を対象とする手帳(自治体)	○父親の役割や育児参加に関する啓発等を含む手帳。
	祖父母を対象とする手帳(自治体)	○子育てに関する変化や世代間におけるギャップの解消も目的とした手帳。
	家庭教育手帳(国、自治体)	○乳幼児や小学生等を持つ各家庭への情報提供や家庭教育に関する学習機会の提供を目的とした手帳。
	学校健康手帳(国)	○学校保健安全法(旧学校保健法)が定める学校における保健管理のために使用が推奨されている手帳。 ○関連する手帳として日本学校保健会や自治体作成の手帳あり。
子供の特性に関する手帳	歯科に関する健康手帳(自治体、研究者、民間企業)	○乳幼児歯の健康記録、歯科医院との連絡ツール等として活用することを目的とした手帳。
	お薬手帳(民間団体等)	○利用者自身による服薬管理、医療機関・薬局による適切な薬物治療の提供を目的とした手帳。
	小児慢性特定疾病児童手帳(国)	○一貫した治療や指導の提供、急変時における適切な対応を確保するための手帳。
発達障害者等向けの手帳(自治体/民間団体)	低出生体重児等の手帳(自治体/民間団体)	○NICUを退院する子供、医療的ケアが必要な子供、低出生体重児、学齢期の心臓病患者、腎臓病患者、糖尿病患者を対象とした成長記録や支援記録、関係者間の情報共有を目的とした各種手帳類。
	発達障害者等向けの手帳(自治体/民間団体)	○発達障害児・者、障害のある子供、特別な支援や配慮を必要とする子供を対象とした成長記録、支援記録、振り返り、情報共有等を目的とした各種手帳類。

参考: 海外での母子健康手帳の普及事例

文献調査

■外務省及びJICA等による国際協力の一環で母子健康手帳の海外普及が進められており、現在では約40か国で母子健康手帳が活用されている。

(海外事例)・オランダ: 時期別に「親になる」「妊娠」「産後期」「0-4歳」「4-12歳」「思春期」の7分冊。ダウン症などのあらゆる子供に対応する手帳の準備も。
・フランス: 出生から18歳までの子供の健康情報を記録。保護者同意のもと、子供の治療や予防的ケアに活用。
・韓国: 1986年の母子保健法改定により厚生省が全国版を作成。病院だけでなく全ての保健施設での利用を推進。
・インドネシア: 日本のJICAの協力により1990年代に母子健康手帳の導入を開始。2004年に保健大臣令が公布され、現在全州で導入。